

こんな課題はありませんか？

〈国語〉

- 国語では目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて記述すること。
- 国語では、文章の内容の話題や方向を捉えて、自分の考えをもち記述すること。

〈算数・数学〉

- ▼算数では、減法の計算の仕方を解釈し、除法に関して成り立つ性質を記述すること。
- ▼数学では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

〈小中共通〉

- 教師主導型授業が多く、児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりになっていないこと。
- 国語、算数・数学ともに、問題の意味を読み取ること、解決の見通しをもつこと、自分の考えを記述して表現すること。
- 一人ひとりの課題に対応した家庭学習になっていないこと。

家庭教育支援アドバイザー

【成果】

- 家庭訪問や面談を通して、保護者との関係づくりをし、困り感に寄り添いながら、子どもへの関わり方を学校と一緒に考えたり、助言や相談機関の紹介を行うことができた。医療機関の受診につなげ、課題を抱える子どもの治療の手助けができた。
- 家庭訪問から家庭学習支援、登校支援という段階を経て、子どもが登校班で登校することができた。
- 小中連携により兄弟関係や家庭状況を把握して、収集した情報をもとに、小中連携をスムーズに進めることができた。

【課題】

- 先生、保護者、児童生徒と、誰でも相談できるアドバイザーとしての周知を徹底すること。

主体的に学ぶ授業づくり

〈小・中学校〉課題設定での工夫

「筆者は読み手に何を伝えたいのだろうか」「これってどういうことなのかな。」「自分の考えを友達に話したい。友達の考えも知りたい。」等と、子どもが学習課題を持ち、主体的に学習に取り組めるような導入や学びたい意欲を引き出すことを重点的に行った。

■取組例（国語）

- 説明文の学習では、子どもの疑問や学びたいことから読み手の問いを作り、「筆者の主張は何なのか。何を伝えたいのか。」等の問いから、次の課題が生まれ、読みが繋がった。
- 学習課題を解決するために、グループやペアを作り友達との対話の中で考えの理由を明確にして読みを深め、自分達で解決しようとする中で、意欲を持って学習に取り組む姿が見えた。



▼取組例（算数・数学）

- 計算はできていても、文章題の立式や、なぜ式が成り立つのかを理解していく過程が子どもそれぞれに異なることを教師が理解し、なぜ除法で立式ができるのか、子どもの意見を出し合った。子どもは「～ずつ」「合わせると～」「引くと～」という言葉に反応し、読解せずに、立式のみを行っており、その様子等から、小中の教員で子どもが「わかる」ことについて協議を進めている。



〈小・中学校〉フリートークの実践

《フリートーク》

子どもたちの主体性を促し、自分の考えを表現することへの苦手意識を克服するために、子ども同士で考えを交流したり、一人の子どもが、複数の子どもに説明したりする。フリートークの在り方は学活等で話し合い改善していく。

●効果

発言する子どもが増加し、積極的に声を掛け合う姿が見られた。子どもから「友達に分かってほしい。」「分かるようになりたい。」という言葉があがり、互いに意欲的に考えを伝え合うようになった。

●《教師が主導するフリートークからの脱却》

教師がタイミングや時間を設定する《フリートーク》から脱却し、子ども同士が自ら考えを交流し合う授業につなげていくことを意識した。授業の中で、子どもが、自分の考えを自由につぶやき、そのつぶやきをもとに、自由に意見を述べ合う話し合いになるよう授業を展開した。子どもたちが自然と立ち上がり、友達同士で考えや思いを交流したり、教え合ったりすることを教師が認めていく教室にすることにより、子どもたち自らが課題を解決しようとする姿勢が見られるようになった。「主体的で深い学び」を目的とした子ども主体の《フリートーク》に移行する。



取組の成果

- ①定期的に研究推進教員や連携担当教員が、各校の実態を踏まえた現状や成果・課題を交流して校区研修を計画することで、教員同士が「子どもが主体的に学ぶ」ための授業づくりの実践につなぐことができた。
- ②子どもが学び始めるための発問の工夫、教師の関わり方、一人ひとりの子どもに合った家庭学習への取組を校区で行うことができた。
- ③「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。」のアンケート項目では肯定的評価が3年間で7.82%向上した。

学習習慣の定着・家庭学習の充実

〈小・中学校〉主体的な家庭学習

「主体的な学び」としての家庭学習について見直した。教師が与えた家庭学習で、ページや決められた量に取り組む「宿題」からの脱却として、チャレンジ学習に取り組んだ。

〈●取組例 チャレンジ学習（漢字）〉

- ①自分で今日のめあてを決める。
- ②自分でテストに向かって取り組む。
- ③自分が書いた漢字を見直し、ふり返る。
- ④自分で間違えた漢字や不安な漢字を練習する。



〈成果〉

抽出児童生徒だけでなく、他の子どもも参加し、自分の「課題」に取り組んだことで、学習意欲が高まった。自分で学習量を増やしたり、内容を工夫したりすることで、課題を解決し、自らの自信につなげることができた。互いのノートを見合う機会を持つことで、新たな視点を持って学び合うことができた。

〈小・中学校〉学力補充の取組など

- 中学校では、抽出生徒を中心に、他の生徒も含めて夏季休業中や定期試験に向けた対策として質問教室を開催した。個別の指導計画をもとに、個に応じた指導を複数の教員で実施、補充学習では、生徒が、得意な教科の教授役を担い、取り組んでいる問題について互いに話し合う等して学びが深まった。
- 定期試験後には、追試験を実施した。追試験を実施することによって、「生徒達が何を理解し、何が理解できていなかったのか」について、教員にも考える視点が見えた。追試験では、生徒が決められた点数をとることを目的とするのではなく、生徒が繰り返し、考えることで課題を解決しようとする姿が見られるよう補充学習の取組を継続している。

- 子どもが課題を設定し、課題の解決方法についても議論した後に、検証作業に取り組んだ。生徒は、他者の考えや検証結果を共有することで、自身の考察を深めていった。

